

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月12日（金）

活動隊員：花房八智代、河原千都、高取充祥

1. 活動日

時

2024年1月12日（金）0:00～24:00（交代制で勤務制）

2. 活動場所

珠洲市立 大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

避難所使用者数177人、自宅避難153人

3. 被害状況（NHK情報：1月12日14:00現在）

人的被害：石川県死者215名（うち珠洲市98人） 住家被害：建物

全壊1900棟以上、半壊39棟、一部損壊250棟、

床上浸水6棟、床下浸水5棟

4. 天候

雨 最高気温9℃ 最低気温6℃

5. 活動の実
際

深夜 巡視、トイレ対応、要支援者・感染者ラウンド

6:00 嘔気ある被災者対応

6:30 要配慮者、感染者ラウンド トイレ介助など被災者へ直接ケア
（24時間体制にて支援）

7:00 退所者対応

看護師間でのミーティング

8:00 自治会の方から本日のお知らせを伝達後、感染予防のため、換気と手指消毒を声かけする
3F 要配慮者ラウンド、その際、効果的な手指消毒について一緒に行いながら指導する

9:20 3階教室で避難生活を送っていた被災者7名が体育館へ移動

9:30 体操・換気・マスク交換

10:00 配膳・食事

褥瘡相談

10:30 簡易水道設置（手洗い場）後、1日2回手洗いをアナウンス

11:00 スターリンク設置、インターネット回線使用可能になる

3F 避難生活被災者の鼻出血対応、不安や悲観・孤独観強く1F体育館への移動提案
本人の思い優先し残留

14:00 ラビットアセスメント入力

換気・体操

15:00 要配慮者・感染症罹患患者ラウンド、感冒症状ある被災者対応

16:00 配膳・食事、物資要請（マウスウォッシュ・褥瘡パット）

20:00 避難所本部ミーティング 段ボールベットなど情報共有

6. 考察

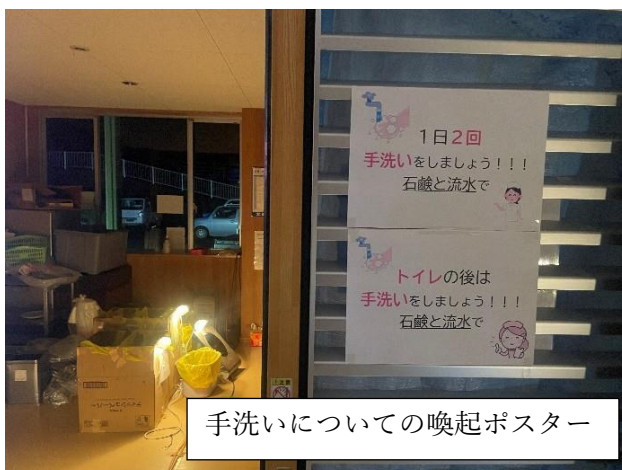
【健康面】現在電気がなく、懐中電灯やランプを活用している。体育館は日中比較的明るいですが、教室等や多目的室は携帯ランプ等の明かり一つであり暗い状況が続く転倒予防の動線の確保が必要である。また、体育館で行っている体操や定期的なアナウンスを他避難所内にも周知し、生活リズムを整える介入が必要である。

【感染予防】感染予防のための効果的な手指消毒方法の指導、換気など声かけを行うことで、被災者自身に感染予防の意識が高まっている。十分な飲料水があったことから、手洗い場を設置（免疫力が低下していることから雨水ではなく飲料水を使用）したことで、手指衛生に対する姿勢が変わり、丁寧にやられる姿もよく見かけるようになった。ストレス負荷も考え、一律強制ではなく、定期的な声掛けや掲示を行うことで、行動変容につなげていく。

【情報】スターリンクによるインターネットが導入されたことにより、遠方の家族などと連絡が取れるようになり、被災者の表情が穏やかになっていた。連絡がとれることで、退所予定者も増加した。Youtubeなどを自分の寝床でみている人が増えたことや、テレビで石川県全体の動画（Youtube）を流すことでテレビの前に集まり、「命があって本当によかった。」「初めて全容が把握できた」と多くのコミュニケーションが生まれていた。

【環境調整】今後に向けて、ダンボールベッドの導入や体育館のレイアウトの再構成を行う必要がある。レイアウト時には、被災初期の名簿（氏名や年齢、住所、連絡先などほとんど聞いていない）を更新していくことも念頭に、区域分けやナンバーリングを行っていくと共に、要支援者などの校舎等で生活している方と同様の既往歴、内服状況、ADLの把握などを含めた情報を収集しながら、一人ひとりにあった生活しやすい環境の作成、個別に寄り添える看護の提供が必要と考える。

7. 参考写真





食器洗い場



調理場



食材置き場



携帯充電場



ゴミ収集所



本部連携ミーティング